

終了課題成果報告書

研究テーマ名	埼玉県における希少野生動植物の保全に関する基礎的調査研究						
研究担当者(共同研究者含む)	三輪誠、角田裕志、米倉哲志、王効拳、金澤光、嶋田知英						
実施期間	平成27年度～平成29年度(3か年)						
研究区分	自主研究事業						
研究費(千円)	27年度	28年度	29年度	年度	年度	研究費合計	備考
自主研究費	538	514	514			1566	
関連外部資金							
環境基本計画上の位置付	(目標)恵み豊かなみどりや川に彩られ、生物の多様性に富んだ自然共生社会づくり (施策)生物多様性の保全						
背景と目的(目標設定)	<p>埼玉県では、生物多様性保全の一環として、絶滅が危惧されている動植物種についてレッドデータブックを作成し、それらの保護を推進している。しかしながら、行政が絶滅危惧種に関するコンサルティングや保全活動の支援などを実施しようとする場合や、その分布状況などについて解析しようとする場合、レッドデータブックに記載されている情報のみの把握では不十分である。そこで、本研究では、県内の絶滅危惧動植物種に関する様々な情報を入手し、それらを一元化したデータベースを構築するとともに、それを活用することにより、その分布状況や減少要因等の解析を試みることを目的とした。</p>						
研究内容(緊急性・必要性、新規性・独創性)	<p>県内における絶滅危惧種の分布等に関する情報は、いくつかの媒体に散在しており、一元化されていない。そこで、まず、埼玉県レッドデータブック(植物編)改訂時に実施された絶滅危惧植物種の分布確認調査のデータを中心に情報収集し、それらの情報を一元化したデータベースを新規に構築した。また、このデータベースを用いて、県内における絶滅危惧植物種の分布状況や減少要因等について、市町村別に解析した。さらに、絶滅危惧動物種についても、同様にデータベースの構築を試みた。</p>						
成果の概要(目標達成度)	<p>本研究では、県内約5900地点から得られた絶滅危惧植物602種に関する情報が収納されたデータベースを構築することができた。このデータベースを用いた解析により、以下のことが分かった。1)県内で絶滅危惧植物が確認された約5900地点のうち、秩父市の確認地点数が最も多く、次いで小鹿野町、飯能市、越生町、さいたま市の順に多かった。また、絶滅危惧植物の確認地点数が多い市町の多くが秩父地域とその近隣地域にあった。2)多くの絶滅危惧植物が確認された秩父市では、絶滅危惧の程度を表すカテゴリー別にみると、すでに絶滅の危機に瀕している「絶滅危惧Ⅰ類」に属する種の割合が高かった。3)秩父地域とその近隣地域でも、特に秩父市、小鹿野町、飯能市及び越生町を中心に絶滅危惧植物が多く分布し、その主要な減少要因として、自然遷移、森林伐採・整地、園芸採取、動物(シカ)食害及び石灰採掘が挙げられた。一方、絶滅危惧動物種については、埼玉県レッドデータブック(動物編)改訂時に掲載候補種として挙げられた982種に関して、データベースの構築を進めた。</p>						
成果の公表(発表・投稿、講演会の開催、報道機関の活用、特許取得等)	<p><学会発表>三輪誠、嶋田知英. 埼玉県における絶滅危惧植物の分布と減少要因の解析. 第64回日本生態学会大会 <ニュースレター>三輪誠. 埼玉県における絶滅危惧植物の分布と保全. 埼玉県環境科学国際センターニュースレター第38号</p>						
成果の発展性(埼玉県(行政・地域)への貢献、技術発展・実用化、課題等)	<p>1)本研究で構築された絶滅危惧植物データベースが、県みどり自然課の業務で活用されている。2)加須市が平成29年3月に策定した「生物多様性かぞ戦略」で、本研究の絶滅危惧植物に関する解析結果が、目標の進捗をはかる指標として活用された。3)絶滅危惧動物種に関するデータベースについては、引き続き構築を進め、その分布状況や減少要因等の解析に活用できるようにする予定である。</p>						